

CHAO LETTER

ジャバ・ベトナム報告 No.5

チャレンジ 2022！ 困難を乗り越えて！

発行者：ジャバ・ベトナム事務局 発行日：2022 年 5 月 16 日

今年こそ、ベトナムの皆さんと対面で！

Ukraine：難民の大移動は歴史的な繰り返し 安藤 勇

考えてみたらジャバ・ベトナムの原点は「戦争」と「難民脱出」かも知れません。ベトナム戦争の恐ろしさのため、自分の国に暮らせなくなった何 10 万人のボート・ピープルは、海の危険を冒して難民になりました。結局、その人たちが望んでいた「平和」と「自由」は、戦争によって生まれた新しい共産主義政権の元で不可能だと感じたわけです。それに、自国に残った国民は国際的に孤立になってしまいました。しばらく経ってから、日本人はベトナム入国許可が簡単になり、ベトナムでも民間協力レベルで小さなプロジェクトの支援が可能かどうかと上智大学のアジア関係研究室が探ってみたことが、ジャバ・ベトナムの誕生のきっかけになりました。

現在、ロシアによる悪夢のような Ukraine での残酷な侵略は、前例がない程の街の破壊や大量難民の脱出をテレビで見ると、昔のベトナム戦争を思い起こします。しかし、Ukraine の状況との違いがあるとすれば、今のように生々しくて、苦しい国民の姿がテレビで映らないことでしょう。去る 3 ヶ月の間、テレビを含むすべてのマスメディアは、毎日のように、この戦争のむごい状況の様子を見せ続けています。戦争は、多くの場合自由と平和を壊し、貧しさを増やすものです。ベトナムを考えると、大量のボート・ピープル難民は海の嵐の危険を冒しながら、海上で石油タンカーに救われて、海外で自由と平和を求めました。私は長い間、日本の港に到着を許された多くのベトナム難民と付き合ってきました。彼らから、自国に残った人々の状況が大変心配している話をよく耳にしました。

ベトナムは、20 年間以上、外国から閉鎖になりましたが、1980 年後半に新政策「doi moi」を迎え、解放社会の道を選ぶことにしました。そして、早くから日本人にはベトナム入国許可が簡単になった結果、今のジャバ・ベトナムの誕生の始まりでした。

支援活動の今後

平井 裕 五井 邦宏

ベトナムの支援活動も、今年で 32 年になります。その間、色々なことがありました。五井と平井が参画する前に長い歴史があり、定常的に支援いただいているメンバーや団体、在日のベトナム人にも支えられて、何とか続けてくることが出来ましたこと、感謝しております。今も支援に対する基本的な考え方は変わっていません。支援は、◆ 自立の活動を行う信頼できる共同体／リーダーへ ◆最も困っている人を優先し ◆人づくり（人財育成・教育）プログラムを重視し ◆私達の身の丈に合う規模で、という方針で進めてきました。

コロナ禍の前から、資金はなかなか集まらず、メンバーのコネクションでホーチミンでの募金も始めました。コロナ禍で、支援先の状況も大きく変わり、また支援内容についても、緊急支援なども行ってきました。4 年前にホーチミンの支部を立ち上げ、より良い支援をどうするかについて、議論も重ねて来ました。ベトナムに於ける、他の支援団体の活動や、募金の方法

についても参考にして考えて来ました。貧富の格差が広がっていること、資産を持っている階層が新しいビジネスを起こしている、また政府も社会福祉活動に力も入れてきています。ベトナムの底力は、日本で働いているベトナム人の技術者からも感じ取れ、将来日本を追い抜いていくエネルギーがあります。

コロナ禍でベトナムの社会・ビジネスの状況も大きく変わってきています。この情報化が凄い速さで進む中、デジタル／ネット活用では進んだ面もあるベトナムですから、我々の活動も変えていく必要があると思います。“魚よりは釣り道具を”という視点からベトナムから自立のビジネスをスタートすること、そのためにも教育の充実と機会を作ることが重要だと思います。“他と共に、他のために”の精神で、ベトナムとの連携を続けて行けるように、我々の支援をもっとより良いものにして行きたいと考えています。



ジャパ・ベトナムのホーチミン支部について

村山 良忠

このたび、ジャパ・ベトナム念願のホーチミン支部が、トアンさんをリーダーとして再出発した。ホーチミンの支部については、ジャパ・ベトナムの人々にいろいろな考えがあると思う。そこで、きわめて私的な考えではあるが、ホーチミン支部の活動について、少し私見を述べさせてもらえればと思う。

ジャパ・ベトナムは、コロナの前まで毎年支援先を訪問して、前年の支援の実施状況の報告を受けるとともに、新年度の支援金を手渡してきた。これについては、1年に1回ではなく、もっと頻繁に連絡を取り合いたいという意見が出されていた。だからホーチミン支部設置については、より柔軟な支援をとということが第一に念頭にあったように思う。しかし、コロナ以降、この意味での支部の必要性は薄れてきている。ズームやミーティングなどを用いた地球規模の会議は一気に普及した。実は、コロナ以前でもできたのであろうが、コロナ以後心理的な敷居が低くなった。インターネットを通じて支援先とは頻繁に会合ができるはずだ。

だから、ホーチミン支部には、日本にあるジャパベトナムを補う仕事にとどまらず、ベトナムにあるベトナム人を中心とする組織としての独自の行動ができればと思う。現在行われているベンチェ地域での教育支援をはじめとしたホーチミン周辺での支援活動に取り組むとともに、新たな支援先を見つけ、そしてホーチミン支部の活動を経済的に支えてくれる人々・組織を発掘することが大事だ。

まず、これまでホーチミン支部と関わってきた人々との関係の復旧が必要だろう。現在の人数では、個々のメンバーの負担が大きくなりすぎる気がする。ホーチミン支部の活動が復活すれば、戻って来てくれる人々もいるに違いない。もちろん、新しい、若い人たちの参加は必要なので、ぜひ開拓して欲しいと思う。

資金面では、現在行っている支援に対する日系企業、ベトナム企業への協力の要請も必要だが、この過程で、やってみても面白いと思っているのが日系企業への社会科見学だ。社会科見学の費用を支援してもらえると、子どもたちへの教育支援にもなる。日系企業にホーチミン支部の活動を知ってもらえる良い機会にもなるだろう。そのためには、ベトナムでのボランティア団体としての正式な登録も必要になるかもしれない。

越日文化交流もぜひ行ってほしい。教育支援先へのボランティアによる日本語教育でもいいし、支援地の成人に対する有料の日本語講座もいいだろう。ホーチミンにいる日本人の中には、いろいろな特技を持っている人もいるので、彼ら彼女らにボランティアで依頼できるなら、お茶、お花、日本料理、剣道、柔道、合気道などのイベントを企画して、そこで募金活動をするのもいいだろう。実は、日本でも日越文化交流はしてほしいと思う。在留ベトナム人に対する日本語講座、留学生による有料のベトナム語講座、ベトナム料理やアオザイ、ベトナム音楽の有料講座などを行えないものだろうか。

ベトナム経済の発展は早い。バイクで満ちていたホーチミンの道路には多くの自動車が走り、時には高級スポーツカーが排気音を響かせながら交差点を曲がっていくのさえ見られる。税金の関係で、自動車の価格は海外の倍くらいするにもかかわらずだ。周辺には高層建築のマンションが林立している。経済の成長と所得格差が急速に進んでいることが想像できる。

ホーチミン支部は日本のジャパ・ベトナムの支部として生まれたけれど、ゆくゆくはジャパ・ベトナムのカウンターパートへと発展して欲しいと私は思っている。そのことは、発展著しいベトナムと日本のこれからの関係のあり方を象徴するのではなかろうか。

ホーチミングループのベンチェに於ける活動 ルオング・クイ・トアン

ベンチェと言えばココナッツの木が地平線のかなたまで無限に広がる風景を思い浮かべます。これが、ベトナム人のこの地方に対する一般的なイメージだと言えます。また、夏になると、マンゴスチンやランブータン、ドリアンなど美味しい南国フルーツの産地としても有名です。



ココナッツの木の森



ランブータンの収穫

Japa-Vietnam は、2020年12月にこの地方に所在する Hung Nhuong 小学校 (Ben Tre 県 Giong Trom 郡 Hung Nhuong 町) に浄水器2台を寄贈いたしました。この地域は、開発が遅れている貧困地域の一つであり、ここの住民たちは、農業用水や生活用水を、県内を流れるメコン川支流の水に頼っています。しかし、これらの河川でも乾季を中心に塩水遡上が恒常的に発生しているため、農業用水や生活用水不足の被害を受けています。

Hung Nhuong 小学校の学生数は約250人で、浄水装置をこの学校に設置することで先生や生徒たちに安全な水を供給することができています。設置後、ベトナムではコロナの感染状況が悪化したため、政府は外国人の入国、公共交通機関の運行、集会などを禁止し、また教育機関、飲食店、ショッピングモールなどを閉鎖する等、いわゆる社会隔離措置を実施しました。学校が本格的に再開したのは、今から約2か月前のことなので、設置した浄水装置はそれまでにほぼ新品未使用の状態で保持されていたようです。そのため、フィルターの交換は当分必要ないそうです。



浄水器と Hung さん (左)

Hung Nhuong 小学校を紹介してくださった Hung さんは、2021年6月に浄水装置の管理状況を確認しに行きました。学校側がきれいに保持してくれていることを確認できたそうです。学校再開後、設置した2台の浄水装置が、先生や学生たちにどのように役立っているか、それを調査するために今週末に学校を訪問する予定です。

Hung Nhuong 小学校を紹介してくださった Hung さんのことについても少し紹介したいと思います。Hung さんのフルネームは Nguyen Phuong Hung です。ベンチェ出身で、慈善活動に大変熱心な好青年です。彼は、ベンチェ電力会社に勤める傍ら、貧困に苦しんでいる年寄りや子供たちを支援するためのボランティア活動にも積極的に取り組んでいます。また、県内の農家とのつながりもあって、農業関連ビジネスによる支援金創出の可能性を模索中のホーチミン市グループとしても、彼との交流や情報交換で、新しい支援先を見つけたり、新しいビジネスにつながるような活動を手がけられたらと期待しております。

事務局・編集後記

平井 裕

皆さん、いつもご支援をありがとうございます。コロナ禍も徐々に沈静化してきています。変異株が出てきているので、予断は許せませんが、今年こそ“訪問ツアー”を実現したいと考えております。日程は未定ですが、今年は会員メンバーから新しく参加いただける方を期待しております。

今回、ホーチミングループのことについて、2報の報告があります。ツアーの中で、ホーチミングループとの交流も行いたいと考えております。特に皆様に期待したいことは、ベトナムでの新しい活動のアイデアです。ツアーの前でも、後からでもよろしいので、皆様のフレッシュな頭でお考えになったことを、是非メールでお寄せ下さい。皆様からのご意見を、このチャオレターに載せていきたいと考えております。e-mail: japavietnam2014@gmail.com のアドレスにお送りください。もう一つ、今年はコロナで中止しておりましたチャリティコンサートを再開します。日時は、10月10日（月、祭日）の午後を予定、場所は四ツ谷、司牧センターのあるビルの岐部ホール404号室です。皆様とお会いするの楽しみにしております。

（ホームページ: <http://www.japa-vietnam.org/>）

会計報告

小野 浩美

2021年12月14日～2022年4月18日 寄付者のお名前（敬称略、順不同）

上智カトリックイエズス会センター Thim Ha Thanh Yu イエズス会社会司牧センター
三輪直子 油木輝成 森絵里咲 グエン・ティ・ゴック グエン・ティ・マイ 駒込直美 阿倍節子
武永蘭 辻村寛行 中島淑子 山本昌子 田頭信博 今井久子 永吉一衣 武市英雄 岡田典子
湯下博之 斎藤彰 羅子修子 林裕美子 桜井健吾 関口順 宮坂英美 石川直美 島田ヒロシ
桜井優子 桜井孝彦 青沼西子 宿澤恵子 藤井訓子 関谷英一 守口恵子 藤本エイ子 宮坂淑子
いつもあたたかいご寄付をいただき、ありがとうございます。

会計報告（2021年12月14日～2022年4月18日）

		日本（円）	ベトナム（KVND）		日本（円）	ベトナム（KVND）
収入	寄付金	418,145	0	前期繰越金	1,117,124	108,470
	助成金	0	0	当期収支	418,145	0
支出	支援金	0	0	次期繰越金	1,535,269	108,470
	活動費	0	0			

今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。

（ご支援先） 郵便振替 00100-8-118761 JAPA VIETNAM
銀行振込 三菱 UFJ 銀行 店番号 315 普通預金 3544236
JAPA VIETNAM 代表 安藤勇